

表4 平成12年度決算の歳出の内訳 (前年度比較)

費用	平成12年度	平成11年度	増減
総務費	10.9億円	12.7億円	△ 1.8億円
民生費	50.7億円	57.5億円	△ 6.8億円
衛生費	10.6億円	31.7億円	△ 21.1億円
商工費	14.7億円	7.8億円	6.9億円
土木費	33.8億円	40.5億円	△ 6.7億円
消費税	1.9億円	1.5億円	0.4億円
教育費	15.1億円	11.7億円	3.4億円
公債費	22.0億円	21.2億円	0.8億円
給与費	52.0億円	51.0億円	1.0億円
その他	5.7億円	8.1億円	△ 2.4億円
合計	217.4億円	243.7億円	△ 26.3億円

歳出は、民生費や教育費などの目的別に区分する方法と、人件費や維持補修費などの性質別に区分する方法があります。今回は平成12年度の決算を目的別で区分したもので見てみましょう(表4)。

やはりクリンクルセンターの建設事業が終了したため、衛生費が大幅に減

チェック4 歳出はどようだったの？

国から、6分の1が道から市へ交付されます。市は、残りの6分の1を加えて支給するわけです。市税や地方交付税とは異なり、その使い道が特定されているのが特徴です。

表5 平成12年度末市有財産の内訳

区分	面積・金額
土地	564万7,900㎡
建物	27万5,900㎡
基金など	現金 36億4,639万円
	土地 14万6,800㎡
その他	債権など 10億7,519万円
	土地 6万4,300㎡

市有財産の内訳は表5のとおりとなっております。下水道終末処理場などの用地を取得したため、前年度に比べ、土地は約2万5千800平方メートル、建物も別マリンパークの購入などで、1万4千800平方メートル増えました。

このほかに、現金や預金として保有している財産もあります。それが基金です。この登別市の基金については下

チェック5 市の財産の状況は？

少していますね。教育費は西陵中学校校舎の大規模改修事業などがあり、増加しています。また商工費で7億円近く増えていますが、これは有珠山噴火の風評被害を受けた観光へのため、観光キャンペーンなどのPR活動を展開した登録観光協会へ補助金を増額したことや、登録マリンパークニクスの経営改善に向け、施設を市が買い取ったためです。

表6 市債の状況

区分	11年度末残高	12年度中償還額	12年度中借入額	12年度末残高
一般会計	264億4,625万円	13億5,134万円	21億8,770万円	272億8,261万円
特別会計	学校給食 5,752万円	856万円	500万円	5,396万円
	給水事業 127億7,562万円	2億7,533万円	17億1,600万円	142億1,629万円
	下水道事業 1億827万円	1,443万円	0円	9,384万円
合計	393億8,766万円	16億4,966万円	39億870万円	416億4,670万円

なぜこんなにたくさんのお金を借りなければならぬのでしょうか。それは、例えば公共施設などを造る

段で詳しくご紹介しています。

市の借金である市債。表6は、市債の残高状況です。

チェック6 市の借金の残高は？

- ◎ **社会福祉事業基金**
地域福祉活動の促進と快適な生活環境を作るために行う社会福祉事業に必要な財源に充てるための基金です。
◆平成12年度末現在高 2千304万円
- ◎ **おもいやり基金**
高齢者の方などの保健福祉の増進を目的に、地域の特性に応じた社会福祉活動の推進を図るための費用に充てる基金です。(この基金は、基金自体は取り崩さず、その運用益のみを利用することが条例で定められています。)
◆平成12年度末現在高 3億5千112万円
- ◎ **観光開発基金**
市の観光基盤を整備し、観光開発の推進を図る費用に充てるための基金です。
◆平成12年度末現在高 7千407万円
- ◎ **生涯学習振興基金**
市民の生涯学習の充実振興を図る費用に充てるための基金です。
◆平成12年度末現在高 1億598万円
- ◎ **一般廃棄物処理施設整備基金**
一般廃棄物処理施設の整備のための基金です。平成12年度は、旧清掃工場の改修・解体費用に充てるため3千659万円を使用しました。
◆平成12年度末現在高 1億617万円
- ◎ **介護保険円滑導入基金**
介護保険法の円滑な導入を図るための費用に充てる基金です。平成12年度は、介護サービスに2億8千475